

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成20年2月20日
事業所名	街かどケアホーム ゆうか
ユニット名	3Fユニット
事業所番号	23704007542
記入者名	職名施設長 氏名 松田 正良
連絡先電話番号	052-505-5550

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年に1回お祭りを行い、地域の方に参加して頂き喜んでいただいている。		「地域のよろず相談所」として、認知症介護・介護保険についての相談、認知症介護教室の開催をし地域に貢献していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価のための勉強会の実施、全体会議を通して理解を深めている。評価内容により、全職員が意見を出し合い改善に努めている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	協力医院・近隣住民・学校関係者を招き報告や話し合いを行なっている。		会議で出された意見が施設運営に活かされていない部分があるため、全体会議での議題に取り上げる等活かしていく具体的な方策を全職員で考えていきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者・役職者が必要に応じ、市・区の担当者に報告と情報共有に努めている。職員にもその内容を伝えている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を実施し理解を深めている。入居者の約半数の方が権利擁護を利用されている。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修の段階で、虐待について学習できる機会が設けられている。日々の業務においても、意識を持って職員同士が話し合いをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常に全職員が馴染みの関係にでられるよう時間をかけて関わりを持っている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・現任者研修・役職者研修を実施している。職場外研修も職員に案内をし、参加できるようにしている。		資格取得支援にも力を入れていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーや介護従事者対象の介護セミナーの実施。管理者間の情報交換の場を設けている。		他のグループホームとの交流会や勉強会の実施をしていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体での交流会、事業所単位では忘年会や新年会、懇親会を行いストレス軽減に努めている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員のスキルアップのために法人内に試験制度を設け、スキル向上と昇給・昇格が連動し、個人の頑張りを評価できる体制がある。給与規程の見直し。福利厚生充実。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談の段階から、同じ職員が関わり、顔なじみな関係を築き安心していただけるよう対応させていただいている。今までの生活を維持出来るよう、コミュニケーションを取りながら信頼関係を築いている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご利用者同様、相談の段階から同じ職員が関わり、顔なじみな関係を築き安心していただけるよう対応させていただいている。コミュニケーションを密に取りながら信頼関係を築いている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた際に、ゆうかが満室で利用できない場合には、待機をしていただくか状況に応じて他の介護サービスについてご案内させていただいている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居を実施している。職員と顔なじみな関係になり、安心して生活していただけるよう完全個別対応をしている。入居後の生活においても馴染みの環境になれるよう、以前からしようしていた物（家具や布団等）を持って来ていただいている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、常に教えていただくという気持ちを忘れる事なく、ご利用者と日々向き合っている。外出や食事の支度等一緒させていただき中で、さまざまな事をご利用者から学ばせていただきながら信頼関係を築いている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時や電話連絡の際、希望や思いを伺っている。ご利用者の様子を、週に1回家族連絡として手紙や電話にてお伝えしている。		ホーム便りの定期的な発行とご家族への送付をしていく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族との外出・外泊を自由にしていただいている。ご家族の来訪も特に時間制限等のきまりはなく、いつでも来ていただける環境を作っている。		行事などにより、今まで以上にご利用者とご家族がふれあう場・時間を作っていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族から今までの生活歴を伺い、いつでも行きつけの喫茶店や床屋、商店等に行けるようにお手伝いさせていただいている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	必要に応じてリビングの環境を変えている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も年賀状やイベントのお知らせのお手紙を送らせて頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>必要に応じてケア会議等を行い情報の共有を行っている。ご本人の意思を尊重できるよう努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人・家族・知人等から情報を集めている。家族連絡や来訪時に近況をお伝えし、ご家族からも色々な話を伺っている。出勤時には必ず全利用者の介護記録を読み把握をしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>介護記録での把握はもちろんのこと、ADL・身体状況等に変化が見られる段階でアセスメントを行い状況把握に努めている。</p>	<p>ご利用者のニーズに応じ、また状況変化に対応するために個人に合わせたチェック表を作成し状況把握をしている。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成時には、会議を行ない情報・意見交換をしている。ご本人はもちろんのこと、ご家族の意向も伺い介護計画に記載している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ご利用者の変化に合わせて、モニタリングを行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	介護記録に日常の様子を記録している。		介護計画に沿った記録の充実。(記録用紙の見直し等)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	馴染みの病院の継続や外泊、体験利用等状況やニーズに合った対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	運営推進会議に地域の方や学校の先生・協力医院の看護師等に参加して頂き、情報・意見交換をしている。また、認知症についてやゆうかについての啓蒙活動も行なっている。		地域の中に根ざした施設となるよう、ホームの空いているスペースを有効活用してイベント等を行なうことで、たくさんの方にゆうかを知ってもらい理解を深めていきたい。
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	福祉用具を、ご本人・ご家族に相談をしながら状態にあわせたものを提供させていただいている。		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	ご本人の状況に応じて、権利擁護センターを利用させていただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望にてかかりつけ医に受診継続していただいている。また、継続して受診していただけるよう病院と連携を密に取っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業所開設時から提携している医院があり、定期的に受診、状況によっては往診していただいている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医院の看護師と連絡をとることが出来る状態になっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合、毎日お見舞いに伺っている。医師や看護師と情報交換を常に行なっている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人の意向を第一とし生活をされている。ご家族には、今後予想される状態をお伝えし、思いや意向を伺っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医と連携をとり適切な対応をさせていただいている。		協力医・かかりつけ医と連携を密にしていきながら、職員のターミナルケアに対する知識を勉強会等を行なうことで深めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退居前に、転居先の関係者と十分な情報交換を行い、ご本人がお困りにならないよう支援している。</p>	
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報を書庫に入れ施錠し管理している。接遇マナー研修を行い、言葉遣いや対応についてスキルを磨いている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>アセスメントや日々の関わりからを参考に、選択できるよう環境を整えたり声掛けをしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>タイムスケジュールを作らず、個人のペースに合わせて生活をしていただけるよう支援させていただいている。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご本人の意志でおしゃれをされている。行きつけの美容室への送迎をしている。</p>	<p>お部屋での生活を中心としている方の理美容について、訪問サービスの活用を検討していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時に召し上がりたいものをお出ししている。希望されるご利用者と一緒に調理や片付けをし、食事も一緒にさせていただいている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人に合わせたものを用意させていただいている。また、それを日常生活の中で楽しむことが出来るよう環境から整えている。		冷蔵庫に入っている飲み物等が、座っている方・取りにいけない方が分かるようにしていきたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録表にて観察をし排泄パターンを把握している。それにより、状況に応じて声掛け・誘導を行なっている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できるように浴槽にお湯を張っている。個人のニーズに合わせて、ご希望があれば職員も一緒にさせていただく。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜眠れない方に対して、無理に寝ていただくのではなく、一緒に過ごしたり不安などないように対応している。ご本人の生活リズムを尊重し関わらせていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	映画・カラオケ・将棋等、ご本人の希望に応じた支援をしている。散歩や買い物など一緒にさせていただくことがある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆んどの方が権利擁護センターを利用されている。また、ホームにて預けられている方も多く、ご本人の希望に応じてお渡しし買い物等を楽しまれている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日自宅の様子を見に行く方や散歩に行く方、車で連れて行って欲しい等同行を望まれる方は一緒に、またお一人で行かれる方は見守りをしている。その日のご希望だけではなく、自宅での生活のペースに合わせ、その方の生活習慣通りの外出（外出先）の支援を行なっている。		訴えとして声に出されない部分のニーズへの対応。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「これ以上は行けない」という制限はしておらず、希望があれば旅行へも同行している。一人で行きたい、誰かと行きたい、家族で行きたい、場所も含めて思いを実現できるように支援している。		訴えとして声に出されない部分のニーズへの対応。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃より、施設の電話を自由に使って頂いている。職員の前では話したいことも限られてしまう恐れがあるため、居室やプライベート空間での使用もできるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限は設けてはいない。日頃より、ご家族には「いつでも来てください」と伝えている。		ニーズがあれば面会室としての空間づくり。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時より職員には「施設側がタイムスケジュールを作ることも抑制である」と指導をしている。「自分がされたいいやなことは決して他人にしない」という理念を徹底している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設内日中は施錠箇所はない。居室・トイレ・浴室については、ご利用者が使用の際自ら施錠する以外は職員側からは一切ない。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	施設内はもちろん一人での外出を希望される方にも、必要に応じて離れた距離での見守りを行わせていただくことがある。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	「危険だから、しまう・隠す」のではなく、どうしたら安全に使いやすく・わかりやすく出来るのかを常に考え用意している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクに対して予防するための知識は日頃から学んでいるが、日々の利用者の状態変化を確実に把握しリアルタイムで「その時必要な対応」を行っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が消防署の救命講習を受講済み。日頃より「もしも」の際の対応を想定し指導にあたっている。		勉強会の実施。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定められている消防訓練以外にも、自主的な訓練や全体会議を実施している。		運営推進会議での話し合い。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族には、アセスメントに基づいた高い満足度を得るためのケアサポートの方法と、そのリスクに対する対応を同時に伝えており、納得いただいた上でサービスを提供している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間の引継ぎだけではなく、協力医への報告・相談も迅速にリアルタイムで行なっており、早期発見と対応に努めている。体調の変化がわかるように、バイタル・食量・排泄についてチェック表を作成し記入している。		チェック表を使用していない方への体調管理をケース記録以外で分かるようにしていきたい。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃より有識者（医師・薬剤師等）から指示を受けられる・相談できる体制のもと業務にあたっている。服薬だけではなく、病状に応じて医師との連携もリアルタイムで行なっている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちなご利用者には、望まれる食事と一緒に便秘の解消を促がせるメニューの提供を行なっている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	必要に応じてだけではなく、その方の思いを最大限に配慮し行なっている。歯科医との連携により口腔ケアを行なっている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に細かな状況把握を要する方へは、確認表を個別で作成し日々記録している。必要に応じて医師の意見も参考に把握に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	個別にマニュアルを作成。毎年勉強会を実施し、消毒等の対応も日々の業務に合わせ徹底して行なっている。マニュアルについては保健所と相談し作成している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生マニュアルを作成し、それに則り業務にあたっている。お出しして2時間経過したものは下げさせていただいている。包丁やまな板類はその都度消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施錠をしていないのはもちろん、地域の方が利用する図書コーナーやコミュニティルームを備えている。無料でソフトクリームを作ることが出来る機械も用意している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は高齢者の身体の特徴を最大限に考慮して設計されており、レイアウトもその時のご利用者のニーズに合わせて変更している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	が利用者からのニーズや相談のもとレイアウトを工夫。2Fフロアについては、プライバシーのある空間確保のため事務所(記録室)を変更し用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具を用意していただいている。ま た、ADLに合わせた福祉用具・家具を随時導入 している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	状況に応じ、定期的に換気を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	設計の段階から専門性をもって行なっている。ま た、個人に合わせた家具の提供を行なっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	家具の配置・レイアウトや掲示など、一人一人の アセスメントから最大限に工夫・配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	鍵をかけていないため、自由に活動していただ ける。ベランダに洗濯物を干される方には物干し台 の設置もしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

すべてのご利用者が、「自分らしい生活」を送っていただくために、職員は常にその方の意思を尊重し、尊敬と敬意の念を持ちながらおひとりおひとりに関わらせていただいております。

完全個別ケアを特色とし、「買い物に行きたい」「温泉に行きたい」「喫茶店でコーヒーが飲みたい」等その方がされたいことへの実現と満足をしていただくことをモットーに日々生活を共にさせていただいております。ホスピタリティの精神のもと、心のこもったおもてなしと言葉に出されないニーズにもお応えをしていきます。